

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|----------------------|----|-------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援・放課後等デイサービスふたば | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和8年3月23日 | | ～ 令和8年3月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 18 | (回答者数) 18 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和8年3月23日 | | ～ 令和8年3月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年4月3日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 【研修】社員・パートに関わらず研修を受講し職員全体が共通言語・知識で支援できるよう努めている。(月平均2時間以上) | 研修に関しては外部機関からの出張研修で直接対面の実践研修を実施するとともに、オンライン、アーカイブ等職員の予定合わせたweb研修を実施している。 | 月の研修時間を平均4時間程度にすることを目標とする。 |
| 2 | 【設備】運動療育スペースが50m ² と広々としたスペースを確保している。多目的トイレ、幼児用トイレの設置、入口をスロープ化等バリアフリーを意識した構造としている。感覚統合器具を多数保有している。 | 空気清浄機の配置、室内外の防犯カメラの設置等により利用者の健康・安全に配慮している。 また、送迎車においても全台安全装置付きの車両を使用し万が一の事故対策も行っている。 | 設備の経年劣化などを含め今後の設備の安全維持に留意する。 |
| 3 | 【情報発信】保護者専用連絡アプリの利用、ホームページ、公式LINE、その他SNSを利用し施設運営に係る情報を発信、周知している。 【イベント】プロスポーツチームのバンビシヤス奈良、奈良クラブから選手やコーチを招き教室を定期的に開催している。 | 利用者様の様子やイベント情報のみではなく、消防訓練、研修の様子も含め発信している。 土曜日の休日を利用し多くの利用者様の参加を促している。これに合わせて家族会も不定期ではあるが実施している。 | 新規契約の利用者様には過去の発信内容も見てもらえるよう周知に努める。 引き続きイベントを実施していく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 作業療法士等専門職の安定した配置がない。 | 業界全体の人材不足も要因と考えるが、1事業所で雇入れられる人材の数が制度的に難しく安定した人材の登用ができない。 | 事業所の認知度、利用者様の満足度を向上させ安定した経営をはかり、余裕をもった人材登用ができるようにつとめる。 |
| 2 | 家族会(過去1.5年)・ペアレントトレーニングの実施ができていない。 | 人材不足により家族会は最近1.5年実施できていなく、また、ペアレントトレーニングも同じく人材不足により実施する時間を確保することが困難な状態である。 | 上記同様で人材の安定的な登用をする。 |
| 3 | 事業所内での運動療育中の利用者様の怪我の発生。 | 活発な活動を行うことが特徴的な施設であることから発生すると考えるが、人員の適切な配置、指導不足も要因ではないかと考える。また、運動療育スペースの広さが職員数に対して広すぎることや要因ではないかと考える。運動療育スペースの利用児童数(最大8名)も要因ではないかと考える。 | 人員配置を中心とした療育内容・プログラムの検討を行う。(ただし、子どもたちの主体性を守ることに留意する) 職員への実践研修も重ねて実施する。 運動療育スペースを縮小し職員員の届く範囲内での活動を行う。運動療育スペースの利用児童数を5名以下にすることを検討する。 |